

## 令和2年度第1回総合教育会議の開催結果概要

【日 時】 令和3年2月16日（火）午後1時30分～午後4時00分

【場 所】 三豊市立山本小学校

【出席者】

(1) 構成員

| 職名    |     | 氏名     |
|-------|-----|--------|
| 市長    |     | 山下 昭史  |
| 教育委員会 | 教育長 | 三好 覚   |
|       | 委員  | 細川 芳樹  |
|       | 委員  | 山崎 市子  |
|       | 委員  | 堤 重尊   |
|       | 委員  | 松田 真喜子 |

(2) 事務局

| 職名       |       | 氏名    |        |
|----------|-------|-------|--------|
| 政策部      | 部長    | 貞廣 慎二 |        |
|          | 地域戦略課 | 課長補佐  | 篠原 栄司  |
|          |       | 副主任   | 森 誠    |
| 教育委員会事務局 | 部長    | 西川 昌幸 |        |
|          | 教育総務課 | 課長    | 内田 さなえ |
|          | 学校教育課 | 課長    | 山下 昌茂  |
|          |       | 指導官   | 小玉 祥平  |
| 山本小学校    | 校長    | 林 雄二  |        |
|          | 教諭    | 中田 祐二 |        |

【傍聴者】 なし

【会議次第】 1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議事項

(1) GIGA スクール構想における学びについて

5 閉会

【議事要旨】

| 発言者        | 内容   |
|------------|--|
| 地域戦略課 篠原   | <p>それでは、定刻がまいりましたので、これより令和2年度第1回総合教育会議を開催いたします。なお総合教育会議については、毎回公開させていただいておりますが、今回は山本小学校での開催となりますので非公開とさせていただきます。</p> <p>それでは、はじめに三豊市長 山下 昭史よりご挨拶申し上げます。</p>              |
| 山下市長       | 挨拶（略）  |
| 地域戦略課 篠原   | <p>続きまして、三豊市教育委員会教育長 三好 覚よりご挨拶をお願いします。</p>   |
| 三好教育長      | 挨拶（略）  |
| 地域戦略課 篠原   | <p>協議事項に入る前に、本日の会議の議長の選任をお願いしたいと思います。この会議の議長は、三豊市総合教育会議規程の第3条第2項において「議長は、市長または市長が指名した者とする」となっております。また、平成27年度の総合教育会議において会議の議長は、会議の内容によって決めることになりました。市長、どのようにいたしましょうか。</p> |
| 山下市長       | <p>教育長にお願いして、会議を進行していただけたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>   |
| 各委員        | （異議なし）   |
| 地域戦略課 篠原   | <p>それでは議長には教育長が選任されましたので、これよりの進行につきましては三好教育長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>  |
| 三好教育長      | <p>それではご指名をいただきましたので、議長を務めさせていただきます。それでは、会次第に沿って議事を進行してまいります。まず、協議事項の1番「(1) GIGA スクール構想における学びについて」の協議になりますが、初めに教育委員会事務局より説明をお願いします。</p>                                  |
| 学校教育課 山下課長 | 説明（略）  |
| 三好教育長      | <p>続いて、山本小学校の林校長、前川教諭より説明をお願いします。</p>  |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 山本小学校 林校長<br>前川教諭 | 説明（略）   |
| 三好教育長             | ありがとうございました。委員の皆さまから説明者へ質問はありませんか。  |
| 山崎委員              | デジタル教科書は家庭でも閲覧できるのでしょうか。  |
| 山本小学校 前川教諭        | パスワードなどが設定されているので家庭で見るとはできません。  |
| 三好教育長             | 現在、デジタル教科書は教師用のもののみ導入されていて、児童用は導入されていません。   |
| 学校教育課 小玉          | ただし、来年度には1教科だけですが、児童用のデジタル教科書も導入される予定で、そちらについては家庭でも閲覧できます。  |
| 三好教育長             | 私からも質問ですが、本日の授業で使用していた立方体についての電子教材ですが、立方体を構成している6面を自由に組み合わせるような電子教材はないのでしょうか。   |
| 山本小学校 前川教諭        | 授業の内容を考える際に、当初は児童が6面を自由に組み合わせて、立方体が「できた」とか「できなかった」という授業を行いたかったのですが、それを行えるような電子教材がありませんでした。そのように使用できる要素が限られてしまうということも電子教材の弱点かもしれません。   |
| 三好教育長             | ありがとうございました。他に質問はございませんか。<br>それでは、GIGA スクール構想における学びについて市長のお考えをお聞かせいただけますか。  |
| 山下市長              | I C Tを使用した教育というものは、先ほどの説明にもあったアダプティブラーニング、すなわち子どもたちの個性にあった教育が行われることかと思っています。それぞれの子どもによってつまづきや気づきは違うのに、今まではそこまで把握しきれなかった。それが一つのソフトを使用することで「この子はこういう思考方法なんだな」とわかるようになるのではないかと思います。そしてそれによってそれぞれの子どもたちに合った教育を行うことができるようになります。これまでは、先ほど前川教諭も説明されていましたが、授業の準備が大変でした。子どもたちの特徴に気づいていても準備が大変で対応できなかった部分を、I C Tによる時間短縮によりできるようになることは、教師にとっても児童にとってもよいことではないかと思います。子ど |

|       |  |
|-------|--|
|       | <p>もたち一人ひとりの能力を確実に伸ばしていったってあげることによっていければよいと考えています。</p> <p>それに、1年生や2年生の子どもたちの方が我々よりデジタルネイティブなのです。我々がタブレットの使い方を間違えて、それを子どもたちに指摘されるような状態なので、そのような中で大人たちがどのように導いてあげるかも重要だと思います。</p> <p>また今回のGIGAスクール構想の中で重要なことは、家に持ち帰っても学習できることです。他市町では、地域によっては子どもたちが持ち帰れない設定にしているケースもあると聞いています。しかし、子どもたちが家庭でも学習できる、そしてその情報が担任の先生に入ってくる、このことが重要ですし、機器を持ち帰ることのリスクについても子どもたちに教えないといけないと思います。</p> <p>今後そういった方向に進めていくべきかと強く考えています。</p> |
| 三好教育長 | <p>ありがとうございました。林校長のお話にもありましたが、現在ICTは特別なものから日常的なものへと変化しており、子どもたちも抵抗感なく使用できるようになっているところです。私たちが学校訪問した際も、様々な機器、特に電子黒板などはかなり頻繁に使用されるようになってきているな、と感じています。今日の授業に参加していただいて、委員の皆さまからご意見があればお願いします。</p>  |
| 細川委員  | <p>電子黒板が導入されて、例えば先ほど前川教諭の説明でもありましたが、授業で動画を使えるようになりました。子どもたちにとっては授業の内容が非常にわかりやすいし、教師にとっても授業の準備が楽になります。私が教員をしていた頃には、NHKの教育テレビの15分番組を録画しておいて、それを授業で流すというような手間をかけていました。デジタル教科書は本当に現場にとっては良いものだなと感じました。</p> <p>また本日の授業の中で、「辺ABに接するのはどの辺ですか」という問題がありましたが、昔であれば方眼紙を切り取って教材を作成していましたが、ICTを利用すれば、すぐにそれを再現できる。ただ、授業を行う中で、デジタル教材のみに頼り切るのではなく、何らかの操作を伴うようなことも抜きにはできないと思います。うまくそれらを組み合わせて授業のレベルを高めていただけたらと感じました。</p>        |
| 三好教育長 | <p>ありがとうございました。ICT機器使う上での効率的な面、また問題点等が挙げられたかと思います。今の細川委員のご指摘ですが、これまでは、実際に方眼紙で立方体を作ってみるという、操作を伴うような授業がよく取り上げられていました。その中で「この辺はどこと接するのだろうか」「どの面</p>   |

|            |  |
|------------|--|
| 山下市長       | <p>とどの面が平行になるのだろうか」ということを考えさせていました。そのように実際の操作を行うということも、ICTの活用と並行して必要ではないかというご指摘です。</p> <p>ICT機器を使用すれば教師の準備時間を省けるという良い面と、問題になる面の両面が指摘されました。</p> <p>よく言われることですが、人間の記憶とは文字だけの情報だと20分後には46%を忘れてしまい、1時間後には52%を忘れてしまいます。しかし、映像と文字という2つのメディアがあると、この記憶時間は倍になるそうです。そういったことを教員の皆さんはわかっているから、いろいろな工夫をして授業をしているのだと思います。例えば動画の部分だけでも子どもたちの記憶に残すということでも十分に意味があるのかなと思います。</p> |
| 三好教育長      | <p>今年は教科書採択があり、委員の皆さまにもそれぞれ教科書を見ていただいたところですが、来年から使われる教科書においてもさまざまな教科で教科書にQRコードが描かれており、それを読み取ることで動画学習ができるという形式になっているそうです。目で見ることの重要性について、山下市長よりお話いただきました。他にご意見はありませんか。</p>   |
| 松田委員       | <p>ICTを利用すると、実際に文字を書くということが減るのではないかと心配しています。やはり書くことも大切ではないかと思います。</p>  |
| 山下市長       | <p>間違いなくそうなると思います。前川教諭のご意見はどうですか。</p>  |
| 山本小学校 前川教諭 | <p>おっしゃるとおりかと思います。やはりバランスが大切だと思います。本日の授業の立方体展開図にしても、失敗してもよいので方眼紙を使用して授業をしてもよいかなと考えました。ただ、ICTを使って視覚的情報があった方が覚えやすい子どももいるので、上手く両方を活用していければと思います。</p>  |
| 山本小学校 林校長  | <p>6年生は卒業文集を作成します。これまでは手書きで作成していましたが、ICTを利用すると推敲するチャンスが全然違うと感じます。一度文字で書いたものを全て消して書き直すという作業は非常に負担がかかります。だから「もういいや」となってしまう子どももいました。ところが、今は自分の文章を見直して、先生や友達との会話の中で「じゃあ書き直そう」となっても簡単に書き直すことができる。ですから、同じ「文章をまとめる」という作業でも、以前より非常に良いものができたのではないかなと思います。</p>   |

|          |   |
|----------|---|
| 細川委員     | <p>これからの子は、読めても書けない、という子が増えてくるような気がします。大人の段階での利用と子どもの段階での利用は違うと思います。これから漢字を習う子どもたちにとっては「書く」ということが本当の学習ではないかと思うので、大人になってからのICT利用とは感覚が違うところが確実にあると思います。ICT利用というものは、学習のメディアが増えるということがメリットだと感じますが、一番大切なのは、今社会全体で言われていますが、コンピュータに使われる人間ではなく、使う人間になりなさいということだと思います。教育の現場では、ツールとしてのICTの使い方と、基本的に分離して子どもの人間性などの基本的な部分を把握しておかなければなりません。</p> <p>あと気になったのが、少し前にNHKで特集をしていましたが、視力の問題です。田舎ではわかりませんが、小学校の子どもの25%が既に近視など、視力に問題があるそうです。それが高学年になると75%もの視力が低下していると言われていました。子どもたちのゲーム時間の問題で香川県でもいろいろ議論されていましたが、家庭でもゲームなどで常に画面を見ているという習慣の中で、学校でも画面を見る時間があまりにも長くなるというものかなと思います。テレビでも言われていましたが、仮に「2時間画面をみたならば30分は外の景色を見なさい」という話もあるので、時間割を考える際にもICTを利用する教科と利用しない教科を交互に配置するなどの配慮も必要ではないかと思いました。</p> |
| 山下市長     | <p>視力の問題については、結局日光を浴びる時間によるらしいので、ICTの利用の有無よりも外で遊ぶ時間が短くなったことが問題ではないかと思います。どうしても我々はデジタルネイティブでないので、新しく入ってきたものを異物と捉えてしまうような気がします。テレビのカラー放送が始まった時に「テレビをずっと見ていたらあかんで」と怒られたのと同じで、視力の問題とICTの利用はすこし問題が違うような気がします。ICTだけの問題ではないと思います。</p> <p>小玉さんは何か思うところはありませんか。</p>  |
| 学校教育課 小玉 | <p>視力の問題は皆さまのおっしゃるとおりですが、デジタル機器だから特に視力が悪くなるというエビデンスはなく、瞬きをせずずっと目を緊張させて何かを見るという行為が視力の低下を招いているそうです。デジタル機器でも紙に書かれた文字でも、目を緊張させてみていると同じように視力を低下させてしまうそうです。ですからこれまでと同じように、根詰めて何かを見過ぎないというような対策が重要になってくるのではないかと考えています。</p> <p>あと、タブレットだとどうしても紙の教科書より画面が小さいので、顔を近</p>   |

|                   |  |
|-------------------|--|
| <p>三好教育長</p>      | <p>づけて見てしまうということも起こりえますが、最近のデジタル教材は文字の大きさも自由に変えられたりしますので、例えば特別支援学級の子どもに合わせての文字の拡大やルビ振りの調節など、その部分でも個に応じた支援ができるよう進化しており、今後の教材の進化にも期待できると思います。</p> <p>今の話にもありましたが、授業の中でいかに有効な学習ツールとして活用していくかが問われています。教育委員会にいとよく教科書会社や出版社が訪ねてきます。そこで、「デジタル教科書の作成には非常に手間をかけて、QRコードに動画もたくさん埋め込んでいる。子どもたちが学習しやすいように本当に努力しているつもりだが、果たして先生方はそれらを見てくれるのだろうか」とおっしゃっていました。デジタル教科書などない時代は、紙の教科書を読み込むことで教材研究をしていました。しかしこれからの時代の教材研究は、そういったQRコードなども見て、何が授業に活用できるのかを見なければいけない時代になってきています。これからの先生は、そういった部分に目を向けていかなければ、うまく活用できないのではないかという気がします。</p> |
| <p>学校教育課 山下課長</p> | <p>やはり全体の教育構想の中での関連付けが重視されなければならないと思います。従来の方法とデジタルとのバランスが大切だと思います。どうしても新しいことが始まると、振り子の降り過ぎで「AかBか」という思考になってしまうので、うまくその中心をとっていくことが重要だと考えています。</p>  |
| <p>三好教育長</p>      | <p>山崎委員は授業をご覧になっていかがでしたか。</p>  |
| <p>山崎委員</p>       | <p>私は社会人講師という立場で小学校と中学校で授業をしていますが、2～3年前から電子黒板を授業で使うようになりました。これまでは、初めに子どもを前に集めてお手本を見せたり、グループを作ってそのグループごとにお手本を見せたりしていましたが、それでは非常に時間がかかっていました。現在は私の前にカメラを置き、映像を電子黒板に写しだして、またその映し出した映像に補助線を引くなどして授業ができるようになり、時間が短縮できるようになりました。</p> <p>ただ準備までに、操作に慣れなければならないなどの苦労する部分もあります。子どもや若い先生はすぐに慣れますが、我々はそうはいきません。教職員は若い方ばかりでもないので、準備に逆に時間がかかったり、肩こりや腰痛になったり、ICT独特のアニメーションに酔ってしまったたりもあります。そういった部分で技術の進歩を期待したと思います。</p> <p>ただ、ベテランの先生はやはりスキルを持っていますので、若い先生とベテ</p>   |

|          |   |
|----------|---|
| 三好教育長    | <p>ランの先生がうまく教え合うことで、新たなコミュニケーションが生まれたりもするのかなとも感じます。</p> <p>あと、GIGAスクールは全国的に5年計画での導入となっていました、新型コロナの関係で前倒しになりました。いろいろな部分で急速に変化しました。大学生などはほとんどリモートで単位が取れるそうですが、新型コロナに罹患した学生の中には症状が重くて授業が受けられないという子もいたそうです。</p> <p>また私は公私ともにスマホをよく使用しますが、スマホは画面が小さいので肩こりなどの障害がでています。</p> <p>今のお話にもありましたが、やはり若い先生は電子黒板や電子教材を積極的に使用しています。ところが我々のような世代は、そういった環境で生活してこなかったの、どうしても臆病になってしまいます。来年度以降は、若い先生もベテランの先生も積極的に電子教材を使用していくよう指導していこうと考えているところです。その点について学校教育課はどのように考えていますか。</p>   |
| 学校教育課 小玉 | <p>研修の機会を増やすなどして、使い方の説明をしていくことも大事だと思っていますが、学校教育課として一番大事だと思っていることは、先生方に「使いたい」と思ってもらうことです。</p> <p>いろいろな学校の状況を見ていると、「使いたい」と思ってもらえればパソコンが苦手な先生でも、たくさん質問をしてくれるなどして、その先生のパソコンスキルが上がっていきます。やはり、効果を実感してもらったり、どういかに活かしたらよいかをイメージしてもらったりすることが一番大切なのかな、と思っています。</p> <p>児童生徒一人ひとりに合ったアダプティブラーニングを重視しているのはそういった背景があります。キュビナーでやっていることは、今までの授業では実現できていなかった部分だと思います。先ほどの展開図ですとか、子どものワークシートを並べて見せるということは、今までの機器でもできなくはなかった部分です。そういった部分を効率化していくというよりは、今までやりたいけどできなかった部分を機械でやっていくということが先生方に「ICTを使ってよかったな」と思ってもらえるきっかけになればと考えています。なので、まずは「ICTを使ってよかった」「面倒でもやる価値はあるんだな」と思ってもらうことが最初のステップです。</p> <p>そういったことをしている内に、だんだんとICTの使用頻度、リテラシーが上がってくると期待しています。そこまでしてようやく「今までやってきたことをタブレットでやってみませんか」「ワークシートをタブレットに置き換えてみませんか」というように効率化できる下地が整うものかなと思います。</p> |



|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>そのため、やっていく順番が非常に大切で、まずは「面倒でもやる価値があるんだな」と思ってもらえるようなことを最初に示していくというのが重要だと思っています。</p>   |
| <p>三好教育長</p> | <p>東京で会議があった際に講師の方が仰っていたことは「なによりもまず子どもに慣れさせてください」ということでした。小学校低学年から慣れさせていきながら、タイピングがきちんとできるように指導することが必要とのことでした。小玉さんからもお話がありましたが、個別最適化された学習「アダプティブラーニング」は基礎的知識・技能の習得においては非常に適しているのではないかと思います。キュービナーはその一つの例だと思います。そう言ったことについて堤委員は何かご意見がありますか。</p>                             |
| <p>堤委員</p>   | <p>授業において、子どもにとって一番大事なことは、先生の指導に興味を持てるかということで、興味を持つと子どもはのめりこんでいって学習のレベルも上がっていきます。例えば学校の先生のICTの使い方を見てすごく興味を持つかもしれません。また授業でも、例えば地理的な内容であれば、その現場の映像などを映し出すことで、子どもの想像をかきたてることができます。先生方には、子どもに興味を持たせるための手段として、どんどんICTを使っていってもらえればと思っています。</p>                                   |
| <p>三好教育長</p> | <p>今、堤委員がお話になった中で大事なことは、ICTの活用が必ずしも教師主導の「教える」授業に偏重するのであれば、それは授業改善にはならないということだと思います。やはり子どもの発達段階もあるでしょうし、授業特性もあるでしょうから、学習目標に応じて進め、考えさせて自分なりの判断をさせ結論を出させるということを大切にしながら、ICTを授業の中に取り込んでいくことが重要と堤委員は言われたのかと思います。他にご意見のある方はいらっしゃいませんか。</p>  |
| <p>細川委員</p>  | <p>もうこの流れというものは止められないと思いますし、世界的に考えてどんどん進めていくべきだと考えています。ですが、私は理科の教員をしていましたが、実験や観察をすべてICTに頼っていると、感動が少なくなります。例えば、金属球を熱すると金属が膨張して、加熱前に通っていた輪を通れなくなります。そのことを自分自身で実験すると「なるほど!」と思います。そういった実験を映像だけで終わらせていくのは辛いと感じます。先ほど山下市長も言われていたように、現場の先生方にはその辺りの使い分けを間違わないようにしていただきたいと思います。</p> |
| <p>山下市長</p>  | <p>よく言われることですが、ICTやAIを活用したとしても人対人で向き合</p>  |

わなといけない部分は絶対にあります。学校教育でいえば、実験などは絶対に行うべきことで、これを映像で済ませるということは、選択肢としてないと思います。何に重点を置いているかということ、子どもたちの経験や気付き、つまづきを知ることなので、ICTが万能で、それですべて済ませてしまうということは違います。むしろそうあってはいけないと思いますし、それは教える側の責任の話で、「理科の実験は映像で見せればよい」と思うか「これは実際にやらさないといけない」と思うかだと思います。

三好教育長

ありがとうございました。ICTを活用した授業をする中で、ICTを活用することで授業のどこを改善できるのか、また子どもたちがそれによりどのような恩恵を受けるのかを十分に考えながら授業を組み立てていくには、ソフトの内容を教師自身が熟知していることが必要になってくるかと思うところではあります。

本日は1時間の授業を見たことで、これからのICTを活用した授業のあり方を考える機会になったかと思います。

そろそろ予定の時間になりましたので、協議事項（1）についての協議は終わります。

続きまして、協議事項（2）の「その他」ですが、他に協議、調整を行いたい事項はありますか。

堤委員

よろしいでしょうか。

以前に教育長にもお話をしたことがありましたが、今年の春から高校の学区制が見直され、募集定員の5%を上限に県外からも採ってよいということになっており、実際に県外からも申し込みが来ているそうです。そうした中で三豊市は、小規模校4校が統合したこの山本小学校でも1学年2学級という状況です。そこで三豊市においても小中学校の校区制を廃止してもよいのではないかと思います。仮に校区制を廃止しても移動するのは数%の子どもだけではないかと思います。現在、中学校が小規模化してきて、やりたい部活もできないという状況が増えてきています。子どもの選択肢はいろいろあってよいと思います。

私の実体験ですが、私が詫間の海で釣りをしていたときに、隣で遊んでいた母子と話をしました。お母さんが「うちの子は内気で、あまり行動的ではないので大きな保育所に預けるのは不安です。詫間保育所は大きいから、須田保育所に預けようかと思っているんです。」と言っていました。そのようなことも考えると、現在教育委員会で決まっている、児童生徒数が120名を下回ると学校再編対象とするという線引きがよいのかどうかと考えさせられます。やはり市民の親御さんの選択肢として、例えば「うちの子はこの部活が得意だから、良い指導者のいるあの中学校に行かせたい」ということがあ

|          |   |
|----------|---|
| 三好教育長    | <p>ってもよいのではないかと思います。<br/>即座にはなくても、今後の展開を考えていく中で一つの選択肢になるかと思<br/>い、この場で発言させていただきました。</p> <p>ありがとうございました。<br/>子どもたちの数がどんどん減少していく中での自由校区制に関するお話だ<br/>ったかと思ひます。大変大きな課題だと思ひますが、本日は時間の都合上、<br/>それについて深く協議していくことができませんので、定例の教育委員会な<br/>どで協議していければと思ひます。<br/>他にご意見はございませんか。</p> |
| 各委員      | (意見なし)  |
| 教育長      | <p>それではすべての協議を終えましたので、議長の任を解かせていただきま<br/>す。視察も含めまして、長時間にわたりご協議いただき誠にありがとうございました。<br/>ここからの進行は事務局よりお願いします。</p>   |
| 地域戦略課 篠原 | <p>それでは、閉会に移らせていただきます。閉会に際して山下市長より一言ご<br/>挨拶をお願いします。</p>  |
| 山下市長     | 挨拶 (略)  |
| 地域戦略課 篠原 | <p>ありがとうございました。以上をもちまして、令和2年度第1回総合教育会<br/>議を終了させていただきます。長時間に渡りご協議いただきありがとうございました。<br/>ありがとうございました。</p>  |

三豊市総合教育会議規程第6条第3項の規定により、ここに署名する。

令和3年2月19日

三豊市長 山下昭史

三豊市教育長 三好覚